2019 年度地球環境自然学講座

「上野村の伝統回帰の暮らし」 観察会のしおり

2019.6. 叶、飯田

1. 上野村の位置・地勢

（1） 上野村

群馬県の最西南端に位置し、役場地点で東経１３８度４７分、北緯３６度４分、標高５１１ｍ。東部は群馬県神流町（かんなまち）、北部は群馬県南牧村（なんもくむら）、西部は長野県佐久穂町（さくほまち）、北相木村、南相木村、川上村、南部は埼玉県秩父市の１市２町３村と隣接している。村域周辺は、御荷鉾（みかぼ）荒船連山や三国連山など 1,000～2,000m級の山々が座し、険しい山野が総面積１８１．８６ｋ㎡の９０％以上を占める、典型的な山村環境を形成している。

（2） 神流川（かんながわ）

群馬県南西端部を流れる川。群馬，長野，埼玉３県境の三国山北斜面に源を発し，初め北流し，のち東流して利根川の支流の烏川に注ぐ。全長 87km。流域の大部分は関東山地で，上流部に山中（さんちゅう）地溝帯があり，三波川系，御荷鉾（みかぼ）系の古い結晶片岩地帯を穿入蛇行する。上流部に上野ダム、中流部に多目的ダムの下久保ダムがあり，ダムの下流に三波石峡（名勝・天然記念物）がある。ほぼ流路に沿って十石峠街道が通る。下流部は河岸段丘が発達。川の名は「上流の野栗集落に疫病が流行したとき，御神体の髪を流したことから」という伝説がある。

2. 上野村の交通

幹線道路は、神流川に沿った国道２９９号及びこれに続く国道４６２号で、藤岡地域及び秩父地域の市街地にそれぞれ８０分程度、湯の沢トンネル経由で上信越道自動車道下仁田インターチェンジに約４０分の道程。

３．上野村とはどんな村？

哲学者内山　節先生（右写真）の著書「いのちの場所」（岩波書店 2015.10）第２章　“上野村の小さな集落”　から一部を抜粋し紹介する。

『上野村は私がはじめて行った頃は、「群馬のチベット」といわれていた。バスの便はあったが出発点になる高崎線の新町駅から二時間以上かかった。こんな地理的なこともあって、上野村は戦後の近代化から取り残されていた。戦後の上野村については黒澤丈夫村長抜きには語れない。彼は 91 才になるまで 40 年間村長を務めている。いまでも上野村は黒澤村長がひいたレールの上にある。黒澤村長は高度成長期の日本を、日本が崩壊していく過程としてみていた。その理由のなかには山村の過疎化などもあったが、経済が中心の社会が「まともな社会」を崩壊させていくと感じていたのである。だから村長は繰り返し村人に訴えていた。

〇現在の日本の動きに惑わされるな

〇この自然を守っていけば必ず日本のトップランナーになる日が来る。

〇上野村の人間は昔から上野村一家として暮らしてきた。この共同体を守りぬこう。

都市の動きに影響を受けなかった地理的な不便さとこのような村の路線とが、上野村に共同体的な雰囲気を残させたといってもよかった。

この村では、村は生者だけのものではなく、自然と生者と死者が暮らす場なのである。日本の伝統的な社会観では、社会は自然と人間の社会であった。社会の構成メンバーのなかに自然が入っていた。人間が自然の上にたつのではなく、ともにこの社会をつくっているのである。

他と換えることのできない自然が村にはあり、他の死者たちと換えることのできない祖霊に包まれて（村人は）暮らしてきた。

その自然や死者たちは、特別な生き方をしてきたわけではない。自然はあるがままに暮らしてきただけだ。このありふれた一生を受け継いでいくことが共同体を守ることだった。』

４．　村の沿革

上野村の人の歴史は古く、村域の中央を流れる神流川の周辺からは、縄文土器や石器類の出土が見られ、神話の中では、日本武尊が軍勢を率いてこの地を通過した、などの伝説が残っている。村落としての発祥は、文治年間（1185～89 年）木曽義仲の家臣、今井四郎兼平の一族が追われ、この地に土着したことが最初だと伝えられている。その後、武田の家臣小幡守総介の支配となり、天正１８年（1590 年）、徳川氏が関東を統一し、慶長 8 年（1603 年）の開幕に伴い、幕府直轄の天領として代官支配地となった。

江戸時代は、幕府の天領として、「山中領・上山郷」と称し、乙母、川和、勝山、新羽、野栗沢、乙父、楢原の７つの郷村に分かれていた。当時は将軍家に献上する鷹の繁殖地とされ、御守林として総名主のもとに管理されていた。寛永８年（1631 年）には、佐久地方からの米穀移入が行われていた十石峠の麓に「白井関」が設けられ、信州路への取り締まりが強化された。その後、明治２２年（1889 年）、町村制の施行により７郷村が統括され、明治２９年の郡の統廃合により、現在の「上野村」の形となり現在に至っている。

町面積 182 ㎢、人口約 1100 人、人口密度 6.15/㎢は群馬県最小。山間にある過疎地域であるが、2005 年に東京電力神流川発電所が完成、固定資産税収が増加し財政改善。1985 年（昭

和 60 年）8 月に発生した日航ジャンボ機墜落事故の墜落地点といわれる御巣鷹山があり、明治初年に起こった自由民権運動「秩父事件（注）」の舞台にもなった。

(注)秩父事件

秩父事件とは、1884 年（明治 17 年）10 月 31 日から 11 月 9 日にかけて、埼玉県秩父郡の農民が政府に対して負債の延納、雑税の減少などを求めて起こした武装蜂起事件。隣接する群馬県・長野県の町村にも波及し、数千人規模の一大騒動となった。自由民権運動の影響下に発生した、いわゆる「激化事件」の代表例ともされてきた。

５.上州のかかあ天下

（１）上州という地名

古来から現在の群馬県・栃木県域は、『毛野国（毛の国）』と呼ばれ、毛野国を上下に分割して、群馬県のあたりを「上毛野国（かみつけのくに）」と呼んでいた。飛鳥時代から、平安時代にかけて、群馬県のあたりが「上野国（こうずけのくに）」栃木県のあたりを「下野国（しもつけのくに）」とした。そのため、群馬県（上野国）を、『上州（じょうしゅう）・上毛（じょうもう・かみつけ）』ともいう。

（２）かかあ天下

かかあ天下が上州（群馬県）の名物とされる理由として、上州の女性は養蚕・製糸・織物といった絹産業の担い手であり、男性よりも高い経済力があったことがあげられる。雷や空っ風といった上州の厳しい気象環境や、気性の荒い上州人気質に対する印象から、活発で働き者の上州女性を表す言葉として用いられる。

６．今回の観察会で訪れるところの概要

【６月２５日（火）】

（1）不二洞(鍾乳洞)

およそ 1200 年程前、不二洞がある大福寿山山中に発見され、猿が取り巻いていたことから庚申（こうしん）の穴（別名：猿の穴）と呼ばれ、これが後の不二洞となった。今から 400 年程前、藤原山吉祥寺の開山・安宗（あんそう）がこの洞窟の探検に初めて成功し、修行の場として洞内の各所に仏教にちなんだ名をつけた。
また、山の名称から「大福寿穴」と改名し、その名は修行僧たちによって世に広められた。
約 200 年前、川和集落に疫病が流行し、吉祥寺六代住職悦巌（えつがん）上人は、天台の百巻経をたくさんの石に墨書した後この洞窟に納め祈願しこれを鎮めた。その後こうした災いが二度と起きないよう、この洞窟の名称を「不二洞」と改めたという。全長は約 2.2km。
800 年の時を経て大体の全景を把握できた大きさであり、平成 4 年にも、新しい支洞が発見されるなど、未だ全貌は明らかではなく、その規模は関東屈指とのこと。

（2）スカイブリッジ

上野スカイブリッジは、群馬県多野郡上野村にある巨大な歩行者専用のつり橋で、平成 10 年 5 月竣工。鍾乳洞「不二洞」と森林公園「まほーばの森」を全長 225m、高さ 90m でつないでいる。周辺一帯は「天空回廊」という名で 1998 年から観光スポットとして営業している。橋の往復は有料（1 人 100 円）。

（3）まほーばの森

「まほーばの森」は、スカイブリッジの東岸にある森林公園。キッチン、バス、トイレ完備の山小屋風コテージやバーベキュー棟、カフェが整い 2008 年にはオートキャンプ場も整備され、長期滞在にも向いたファミリーリゾート。平成 10 年 5 月竣工。

スカイブリッジ

まほーばの森

【６月２６日（水）】

（1）御巣鷹山慰霊登山

1）1985 年（昭和 60 年）8 月 12 日、羽田発伊丹行日本航空 123 便（ボーイング 747SR-46）が ボーイング社の不適切な修理が原因とされる後部圧力隔壁の破損により、垂直尾翼と補助動力装置が破損し油圧操縦システムも全喪失した結果、迷走飛行へ陥り最終的に群馬県多野郡上野村の高天原山の尾根（通称：御巣鷹の尾根）へ墜落した。乗員乗客合わせて 524 名中 520 名が死亡した単独機で史上最悪の航空事故・墜落事故であった。

2）墜落現場となった御巣鷹の尾根（標高 1539m）に当時の上野村村長　黒澤丈夫氏の筆による昇魂之碑（右写真）が建立されている。登山道は財団法人「慰霊の園」、JAL グループの人々により歩きやすく整備されているとのこと。そこまで高低差 180m、歩程約 800m を約 30 分で登り、犠牲者の冥福を祈る。

3）事故発生から 30 年以上が経ち、遺族の高齢化が進んでいることから、事故から 21 年後の 2006 年 7 月より、墜落現場付近を通る国土交通省の砂防ダム工事用道路が上野村の村道兼林道として一般開放された。これにより、墜落現場まで歩く距離が約 2.2km から約 300m に短縮された。

（2）慰霊の園

平成６１年８月設置。５２０名の遭難者の霊を祀り、慰めるための諸施設を設置するとともに、交通安全祈願の場として広く一般に開放し、

公共の福祉に寄与することを目的として設けられた。（前ページ右写真）
上野村は険しい山々に囲まれ平坦な土地のほとんどない所であるが、趣旨に賛同した村民有志が３０００坪の土地を供出し、そのうち１５００坪を平地にして建設したとのこと。
資料館が併設され、遺品、事故当時の写真などを展示する。財団法人慰霊の園が管理。

（3）旧黒澤家住宅

徳川氏が江戸に幕府を置いた時、現在の上野村・神流町（旧万場町・旧中里村）、旧美原村の一部は幕府の天領となり、山中領として 27 代の代官が支配した。山中領は上山郷・中山郷・下山郷の三郷に分けられ、黒澤家は代々上山郷の大総代を務めた旧家であった。
当時、上山郷には鷹の保護地区が 27 か所指定され、毎年、将軍家に「鷹狩り」の巣鷹を献上していた。黒澤家は代々、その御林守として御巣鷹山の管理にも当たっていた。旧黒澤家住宅は、18 世紀中頃の建築と考えられ、間口 22m、奥行 16mの総二階の切妻造り。その規模の大きさや座敷の数、玄関の設備など、当時の旧家の面影をよくあらわしている。昭和 45 年、国指定重要文化財に指定された（右写真）。案内を元校長・西沢先生にお願いしている。

（4）旧十石街道白井集落

集会所で白井集落の人々と交流。上野村の歴史や生業、生活などのお話しや心づくしのお茶などいただきながら、上野村の「伝統回帰の暮らし」を知り、理解につなげたい。 集会所は狭く、一度に１２，３人ほどしか入れないので、２班に分かれ、1 班は旧十石街道沿いのたたずまいを見学、約 1 時間で交代します。

ｐ.７　「白井の絵図」、ｐ.８「白井の歴史」　参照。

（5） 浜平（はまだいら）温泉シオジの湯

美人の湯として知られる浜平温泉しおじの湯で一日の疲れをいやしてください。なぜ美人の湯か？成分にメタケイ酸を多量（110ｍｇ/Ｌ）に含み、秀和システム社（出版社）が『ケイ素の力』という冊子で　“張りと弾力のあるみずみずしい肌になるなどの効用をアピールしたことによるという。

【６月２７日（木）】

（１）神流町恐竜センター（多野郡神流町）

昭和 60（1985）年 4 月 3 日、群馬県多野郡中里村（当時）で、日本で初めて恐竜の足跡が発見された。
この大発見を契機に、村は恐竜で村おこしを始め、恐竜王国を建国。昭和 62 年には恐竜王国・中里村（当時）の中心的施設である、恐竜センターを開館した。
町村合併で町名は「神流町」となり、恐竜センターは

最近リニューアル。施設は本館と活性化センターから構成され、本館は博物館にお土産売り場と食堂を併設。別館はモンゴルの寺院を模した三階建建築構造で、モンゴル・ゴビ砂漠出土の恐竜化石などを展示している。学芸員の説明で見学。

（２）世界遺産・富岡製糸場（富岡市）

富岡製糸場は、群馬県富岡に設立された日本初の本格的な器械製糸の工場である。1872 年（明治 5 年）の開業当時の繰糸所、繭倉庫などが現存している。日本の近代化だけでなく、絹産業の技術革新・交流などにも大きく貢献した工場であり、敷地を含む全体が国の史跡に、初期の建造物群が国宝および重要文化財に指定されている。また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として、2014 年 6 月 21 日の第 38 回世界遺産委員会（ドーハ）で正式登録された。

時期によって「富岡製糸場」（1872 年から）、「富岡製糸所」（1876 年から）、「原富岡製糸所」（1902 年から）、「株式会社富岡製糸所」（1938 年から）、「片倉富岡製糸所」（1939 年から）、「片倉工業株式会社富岡工場」（1946 年から）とたびたび名称を変更している。史跡、国宝、重要文化財としての名称は「旧富岡製糸場」、世界遺産暫定リスト記載物件構成資産としての名称は「富岡製糸場」。

今回、ガイドの案内でその一部を見学します。

７．宿泊施設

（１）６月２５日（火）

民宿旅館　不二野家　〒370-1614 群馬県多野郡上野村川和 134　TEL 0274-59-2379

（２）６月２６日（水）

今井家旅館　〒370-1615 群馬県多野郡上野村乙母 140-1　TEL 0274-59-2004

８．昼食

（１）６月２５日（火）

群馬県で有名な「登利平」というお店で扱っているお弁当「鳥めし竹弁当」（お茶つき）。高崎から上野村へ向かうバス車内でいただきます。

（２）６月２６日（水）

川の駅（ふれあい館）で「キノコカレー」。ご飯の量が「小」、「中=６５０円」、「大=７５０円」、「特盛＝１０００円」とあり、希望をあらかじめお聞きします。

（３）６月２７日（木）

富岡製糸場近くのいちのやで、富岡の名物という「オッ切り込みうどん」

生活している方がいますので、見学や撮影はマナーを守るようお願い致します。

白井の歴史

壱 十石(峠)街道と白井の市

十石(峠)街道は中山道新町宿から神流川に沿って、上流の山中領を通り上信国境の十石峠を越えて甲州街道に合流しています。「十石峠」の由来は、信州から佐久米が一日十石(約二五〇〇kg)馬で白井へ運びこまれたことによるものです。

白井集落には米穀屋を始め、宿屋、質屋、酒造業、飲食店などがあり、毎月、定期市が七日間開かれ繁栄していました。

市には上州、武州、信州から商人が集まり、米を中心に各地の物産の交易が明治中頃まで続いた。白井集落の真ん中に寛文十三年(一六七三)の銘のある市神様(村指定重要文化財)の祠が祀られています。

弐 白井関所

寛永八年(一六三一)江戸幕府が中山道の脇往還として信州への往来取締りのため設置、番人二人ずつを板葺屋根の番屋(五間×五間半)に配置しました。関所は集落東の「白井関跡のイチイ」近辺にあった。主な通行人は参詣人、廻国巡礼、湯治客、職人、商人などであり、明治二年(一八六九)廃止されました。

参 秩父事件と上野村

明治一七年(一八八四)十一月一日、明治政府のデフレ政策などで困窮した秩父地方を中心に西南上州からも加わった農民らは椋神社(現秩父市)に集結、困民党軍を組織して軍隊、警察と戦いました。

十一月四日、困民党軍の本体が解体し幹部は逃走、参謀長菊池貫平(北相木村)が新総理となり、信州進出を目指し一隊一五〇余名を率いて五日矢久峠から山中谷へ入りました。

六日、十石街道を上山郷(上野村)へ入り、中山郷(旧中里村)や上山郷から同行した者を含めて、三〇〇余名が白井集落で宿営し、村民が炊出し等にあたりました。

翌七日朝、多くの者は十石峠から信州へ向かいました。途中、山中領の村民は峠附近から山越しで多くの者が帰村しましたが、中には信州まで同行、九日、多くの死傷者や行方不明者がでた東馬流(現小海町)での戦闘に加わった者もいました。この日、困民党軍は信州野辺山の原で潰滅しました。

事件後、多数の村民が逮捕、裁判にかけられ罰金刑(最高五万円)などを受けた者は約五〇人、最高刑は重禁固二、五年、信州から帰村しなかった者もいたと言われます。

事件は長い間「秩父暴動」として悪事、犯罪とされてきましたが、百年を経て自由民権運動の一環として農民らが立ちあがった正当な行動であると見直され「秩父事件」として正しく評価、顕彰されるようになっています。

MAP❶ 初代関守の家(白井関所のイチイ) [県指定天然記念物]

県の天然記念物に指定されており、白井に関所が設けられた寛永8年(1631)からあるとみられ、樹齢は推定380年以上。イチイの木は関守の庭に植えられたものであると言い伝えられています。
樹高15m、目通り2.83m。

MAP❷ 市神様の祠 [村指定重要有形民俗文化財]

村の重要有形民俗文化財に指定されており、集落の中ほどに寛文13年(1673)に銘のある市神様を祀ったとされる石の祠があります。祠は高さ50cm、幅20cm、総高60cm。当時は1ヶ月に7日間定期市が開かれ、上州・武州・信州からから商人が集まり賑わいを見せました。信州からは米・酒・みそ・衣類など、白井からは木炭・木鉢・下駄・まゆ・薬草などの交易が行われていました。

MAP❸ 御判形(みはんぎょう)

関守の判や通行手形を作っていたと言い伝えられています。

MAP❹ 水上神社

白井の水上神社には、昔は神楽や太鼓囃子が奉納されたと言い伝えられていますが、現存していません。そこで、祭典を盛り上げるために若い衆の演芸が余興として上演されました。当時の祭日は9月18日と決められていましたが、現在は4月29日となっています。

お問い合わせ

一般社団法人 上野村産業情報センター 上野村観光協会

0274-20-7070 〒370-1617 群馬県多野郡上野村大字楢原310-1 FAX.0274-59-2520

上野村ホームページ
http://www.uenomura.ne.jp

上野村までのアクセス

お車で お越しの方

※……冬期通行止

▶上信越自動車道

練馬IC	78.6km 60分	藤岡JCT	26.8km 20分	下仁田IC	17.6km 25分	鮎沢川3.3km	9.0km 10分	上野村			
碓氷軽井沢IC	25.7km 20分	下仁田IC	17.6km 25分	鮎沢川3.3km	9.0km 10分	上野村					
佐久IC	16.5km 25分	佐久穂町	16.9km 25分	十石峠※	15.6km 40分	上野村					

▶関越自動車道

練馬IC	69.6km 50分	嬬恋IC	14.4km 20分	鬼石	20.1km 30分	神流町	18.9km 25分	上野村			

▶国道299号線

秩父市	10.1km 20分	小鹿野町	19.0km 30分	志賀坂峠	5.3km 10分	神流町	8.2km 10分	上野村			

▶中央自動車道

須玉IC	20.0km 30分	清里高原	23.9km 30分	小海町	18.6km 30分	ぶどう峠※	21.5km 45分	上野村			

電車で お越しの方

上野駅		池袋駅
JR高崎線 100分	JR高崎線 110分	西武秩父線 78分
新町駅	高崎駅	西武秩父駅
日本中央バス 70分	上信電鉄 60分	タクシー 50分
神流町	下仁田駅	志賀坂峠
日本中央バス 33分	乗合タクシー 28分	タクシー 20分
上野村	上野村ふれあい館	上野村

バスの接続、待ち時間等、時刻表を慎重に検討してください。

バス時間お問い合せ先
日本中央バス ☎027-287-4422

乗合タクシーにつきましては上野村役場企画財政課まで

上野村のあゆみ

上野村ホームページから

明治	22 年	4 月	市町村制施行により上野村発足 大字乙母 117 番地に役場を設置
	26 年	4 月	上野村立上野第一（勝山）第二（乙父）第三（楢原）尋常小学校となる
	2 年	12 月	火災により庁舎消失
大正	2 年	12	大字乙母 114 番地に借家（元松元宅）庁舎とする
	11 年	4 月	上野東尋常高等小学校・上野西尋常高等小学校となる
	13 年	4 月	乙母 94-1 番地に上野村国保診療所開設（大沢医師）
	16 年	4 月	上野東国民学校・上野西国民学校となる
	16 年	12 月	乙母 138 番地に伊東宅借家 庁舎とする
	18 年		本谷分校設立
	22 年	4 月	東西の国民学校が上野東小学校・上野西小学校となる
	22 年	4 月	上野東中学校・上野西中学校設立
	26 年	4 月	上野村国民健康保健制度発足（吉田医師）
	26 年	10 月	楢原に国保直営診療所開設（山本医師）
	26 年	11 月	乙母診療所国保直営診療所に改称する
	38 年	3 月	本谷分校廃校
	38 年	11 月	前橋地方法務局上野出張所が万場出張所へ統合
	42 年		成人病教育普及開始
	43 年	3 月	東小学校改築（現上野小学校）
昭和	43 年	7 月	国民宿舎やまびこ荘運営開始
	43 年	11 月	上野村成人病検診開始
	44 年	3 月	農村集団電話・有線屋外放送施設
	44 年	7 月	国保直営診療所廃止・乙父へき地診療所開設（飯島医師）
	45 年	3 月	県道が昇格し国道 299 号として認定される
	46 年	8 月	庁舎新築移転 大字川和 11 番地
	48 年	3 月	三岐分校廃校
	49 年	10 月	乙母 94-1 番地にへき地歯科診療所開設（江川 三郎医師）
	50 年	3 月	広域消防上野出張所完成
	51 年	3 月	野栗沢分校廃校
	52 年	8 月	川和自然公園事業（不二洞）村営化
	52 年	10 月	自治大臣表彰 過疎対策優良町村
	53 年	4 月	高齢者生産活動センター運営開始
	53 年	11 月	成人病対策日本善行会表彰受賞
	54 年	9 月	脳卒中予防管理厚生大臣表彰受賞

54 年	9 月	保健文化賞受賞（第一生命保険相互会社）
55 年	3 月	保健センター完成
56 年	3 月	統合中学校建設
56 年	4 月	琴平自然活用管理センター開設
56 年	4 月	上野中学校設立（中学校統合）
57 年	3 月	給食センター設置
57 年	4 月	旧黒澤家住宅一般公開
57 年	4 月	上野小学校設立（小学校統合）
57 年	3 月	上野小海線 県道昇格
58 年	2 月	老人保健法発足
59 年	3 月	教員住宅建設
59 年	4 月	宮城県津山町と姉妹都市提携
59 年	7 月	田舎のしんせき村事業開始
60 年	4 月	防災無線開始
60 年	8 月	日航機 123 便本谷国有林（御巣鷹の尾根）に墜落
60 年	10 月	厚生大臣賞受賞（老人保健事業優良町村）
60 年	10 月	国道 299 号「乙母・川和バイパス」開通
60 年	12 月	上野村浄化槽条例制定
61 年	3 月	山村広場全体完成
61 年	8 月	慰霊の園設置
62 年	4 月	結核予防事業表彰受賞　仁親王王妃勢津子様より
62 年	7 月	ふるさと体験センター運営開始
62 年	11 月	宮崎賞受賞 神戸市より 地場産業振興
63 年	4 月	銘木工芸館・ふるさと観光会館開設
63 年	4 月	高齢者生産活動センター 森林組合へ運営委託
元年	7 月	上野村高齢者集合住宅完成
元年	10 月	台湾・卓蘭鎮姉妹都市提携調印
元年	12 月	国道 299 号「楢原・乙父バイパス」開通
2 年	4 月	村制施行百周年記念式典開催
平成 2 年	9 月	第 1 回 村民海外視察 スイス他（平成 3 年:2 回／平成 4 年:3 回／平成 7 年:4 回／平成 9 年:5 回）
3 年	7 月	ふるさと交流センター完成
3 年	8 月	第 1 回 中学生海外派遣事業（カナダ）
4 年	4 月	山のふるさと合宿／かじかの里学園開園

4 年	10 月	国土庁長官賞（過疎地域活性化優良事例表彰）
5 年	3 月	新羽ふるさとハイム（村営住宅）完成
6 年	3 月	上野村老人保健福祉計画策定（平成 6 年 4 月より実施）
6 年	6 月	デイサービスセンター開所
7 年	6 月	交流促進センター「ヴィラせせらぎ」オープン
7 年	10 月	東京電力神流川揚水発電所工事用道路着工
7 年	12 月	天丸山・山林火災発生
8 年	3 月	都合平村営住宅（世帯用 6 棟・単身用 2 棟）完成
8 年	4 月	上野村保育所新築移転（勝山）
8 年	10 月	厚生大臣賞受賞（在宅福祉事業）
9 年	3 月	都合平村営住宅（世帯用 3 棟）完成
9 年	5 月	東京電力神流川揚水式発電所（水力）着工 平成 23 年 7 月完成予定 計画概要：最大出力 270 万 kw 総工費約 5,500 億円
9 年	6 月	全国郷土玩具館・体験学習館オープン
9 年	12 月	多野藤岡代替バス運行開始（日本中央バス） 上信バス廃止
10 年	3 月	総合福祉センター（いきいきセンター）完成
10 年	4 月	保健福祉課 上野村大字乙父 630 番地 1 に移る
10 年	5 月	上野スカイブリッジ及びまほーばの森竣工式
10 年	12 月	「乙父のおひながゆ」国選択無形民俗文化財に指定
11 年	1 月	上野村精励感謝状（高齢者）制度発足
11 年	3 月	上野村堆肥センター完成
11 年	3 月	野栗村営住宅A棟完成
11 年	4 月	上野村木炭製造施設完成
11 年	7 月	うえのテレビ開局（CATV 全戸加入）
11 年	8 月	集中豪雨災害（家屋流出 2 戸等）発生
12 年	3 月	楢原村営住宅完成
12 年	4 月	きのこセンター完成
13 年	3 月	塩ノ沢 村営住宅完成
13 年	7 月	国民宿舎「やまびこ荘」建替え・リニューアルオープン
13 年	11 月	第 16 回国民文化祭「ぐんま 2001」開催 皇太子殿下上野村行啓
14 年	3 月	三岐村営住宅完成

15 年	3 月	小具崎平村営住宅完成
15 年	4 月	都合平橋竣工
15 年	5 月	上野村ふれあい館完成
16 年	3 月	湯の沢トンネル(3,323m)開通
16 年	4 月	乗合タクシー(上野村ふれあい館～富岡総合病院)運行開始
17 年	3 月	「神流川のお川瀬下げ神事」県無形民俗文化財に指定
17 年	12 月	東京電力神流川揚水発電所運転開始
18 年	3 月	浜平温泉「しおじの湯」完成、4 月オープン
18 年	7 月	産業振興課(乙父 894)設置
19 年	3 月	野栗村営住宅 B 棟完成
20 年	3 月	勝山村営住宅・黒川村営住宅完成
20 年	6 月	「神流川源流」平成の名水百選(環境省)に認定
20 年	7 月	平成 20 年度地域づくり総務大臣表彰(頑張る地方応援表彰)受賞
21 年	3 月	「中ノ沢自然探索エリア」森林セラピー基地に認定
21 年	3 月	ふるさと林道「湯の沢線」全線開通
21 年	3 月	乙母村営住宅完成
21 年	6 月	運動公園グラウンド(乙父字上野(こうずけ))完成
21 年	9 月	上野小学校新校舎・体育館竣工
21 年	10 月	白井村営住宅完成
21 年	11 月	上野村誌完成記念式典挙行
21 年	12 月	塩ノ沢村営住宅 C 棟完成
22 年	3 月	楢原村営住宅 F 棟完成
22 年	4 月	うえのテレビ地上デジタル放送開始